1957	山本昇司、岡本啓伯、	ピーマン	みおぎ

施肥　　有機質・土壌改良剤・化学肥料など（購入の場合はメーカー名記入）

＜土づくりの使用資材・肥料について＞

使用量はkg/10a

商品名	原料	ﾒｰｶｰ(購入先)	全N%	化成N%	全P%	化成P%	全K%	化成K%	有機率(%)	使用目的	計画 使用量	計画 使用時期	計画 回数	計画 化成窒素kg	実績 使用量	実績 使用時期	実績 回数	実績 化成窒素kg
牛糞堆肥				0					100	元肥	5t	8月			5t	8月		
フスマ				0					100	元肥	1t	8月			1t	8月		
特選有機ペレット			5.5	0					100	NO.1圃場	600	8月			500	8月		
色味工場			7.8	0					100	NO.2圃場	500				400	9月		
血粉				0						NO.1圃場					5.5	8月		
ハイ燐マグ				0						NO.2圃場					75	9月		
有機液肥YA855			9.6	7.7						追肥	120	9～6月	10	9.2	120	9～6月	10	9.2
ニューシープロテイン			0.6	0						追肥	10.5	9～6月	10	0.0	10.5	9～6月	10	0.0

【慣行農法との比較】

***化学肥料**

窒素分で比較して　当地比　5 割減

化学肥料	窒素使用量(kg/10a)
慣行使用量	70
計画使用量	23

***節減対象農薬**

当地比　5 割減

節減対象農薬	計画回数	地域の慣行防除
土壌消毒剤		
除草剤		
殺虫剤		
殺菌剤		
その他薬剤		
合計	10	42

病虫害の防除　　使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、展着剤等を含む）

使用量/10a

分類	商品名	原料/成分名	ﾒｰｶｰ(購入先)	使用目的	計画 希釈倍率	計画 使用量	計画 使用時期	計画 回数	計画 カウント	実績 希釈倍率	実績 使用量	実績 使用時期	実績 回数	実績 カウント	使用回数上限 商品	使用回数上限 成分
殺虫	チェス水和剤	ピメトロジン		殺虫	3000		8月～5月			3000			1	1	3	4
殺虫	プレオフロアブル	ピリダリル		殺虫	1000		8月～5月			1000			1	1	2	2
殺菌	ラリー水和剤	ミクロブタニル		殺菌	4000～6000		8月～5月								4	4
殺虫	マトリックフロアブル	クロマフェノジド		殺虫	1000～2000		8月～5月								3	3
殺菌	アフェットフロアブル	ペンチオピラド		殺菌	2000～4000		8月～5月								3	3
殺菌	トリフミン水和剤	トリフルミゾール		殺菌	3000～5000		8月～5月								5	5
殺虫	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩		殺虫	2000		8月～5月			2000			1	1	2	2
殺虫	コテツフロアブル	クロルフェナピル		殺虫	2000		8月～5月								2	2
その他	スワルスキー	スワルスキーカブリダニ		殺虫 天敵					0				1	0	－	－
その他	コンフューザーV	アルミゲルア・ワワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア		交尾阻害					0						－	－
その他	タイリク	タイリクヒメハナカメムシ		殺虫 天敵					0				1	0	－	－
その他	チリトップ	チリカブリダニ		殺虫 天敵					0						－	－
その他	メリトップ	ククメリスカブリダニ		アザミウマ 天敵					0				1	0	－	－
殺菌	ゼンターリ水和剤	BT		殺菌	1000～2000				0						－	－
殺菌	インプレッション水和剤	パチルス　ズブチリス		殺菌					0						－	－

備考：

化学肥料（窒素成分）は、23kg以内に抑えて使用。

節減対象農薬は、10回以下に抑えて使用します。

実績は山本昇司（会長）のデータです。

	計画（作業、施肥、防除など）	実績（作業）
1月		収穫
2月		収穫
3月		収穫
4月		
5月		
6月	～6月下旬　収穫終了予定	
7月		
8月		8/29～9/3　定植
9月		
10月		10/上旬～　収穫開始
11月		収穫
12月		収穫

定植開始：	平成28年8月29日
終了：	平成28年9月3日
収穫開始：	平成28年10月上旬
終了：	平成29年6月下旬